

俳句の授業をする際に、こどもたちが「俳句を作りたい!」と思ってくれるにはどのようなしたらよいかをいつも考えます。意欲がなければ取り組めないのは、俳句学習も同じです。そのために、訪問する学校の「学校行事」や「学習した内容」を確認することがあります。こどもたちの共通体験を題材にすることで、その時のことを想起しやすくなったり、他の子の発言からイメージがどんどん膨らんでいったりするからです。

「水族館」「動物園」や「日光移動教室」などの校外学習へ出かけたり、運動会の練習をしたりしている時など、こどもたちが見たものや触れたものなどの感覚が生々しく蘇ってくることはよくあります。

先日、味噌を作った話を伺いました。「総合的な学習の時間」に地域の方のご協力をいただき挑戦したそうです。

「材料は?」「自分がしたことは?」「どんな感じだった?」「お友達や先生のこと覚えていてることある?」「教えてくださった方のお話は?」等々質問すると、こどもたちの瞳がきらきら輝いて、たくさん話をしてくれました。「教室中、くさかった」「えー、いい匂いだったよ」「麴とか大豆とかあった」「それ、煮豆だよ」「先生が水をこぼしちゃったんだよね」「ぼくね、指でもんだよ」「わたしは、ぐうでつぶしたの」「早く食べたい」「来年にならないとおいしい味噌にならないって」等々。



「それを俳句にしてみましょう。季語は、『みそづくり』『みそつくる』『みそしこむ』などにすると冬の俳句になります。」ということで、それぞれがその時間のことを思い出しながら俳句を作りました。いくつか紹介します。

『ふくろからこうじあふれたみそづくり』

『教室でみそをまるめて投げ入れる』

『みそづくりゆびのはらでつぶしたよ』

『教室でつぶしまくってみそつくる』

『教室でだんごにまるめてみそしこむ』

『先生が水をこぼしたみそづくり』

なかには『教室でつまみぐいしたみそづくり』と詠み、周りから「えー、知らなかったあ」と驚かれた児童もいました。

『みそしこむみそといっしょにしんきゅうだ』

こどもたちは、自分の味噌が熟成されるまで楽しみにじっと待ちます。